

筑西市の夏

筑波山の西側には、空にも地にも大輪が咲く



祇園まつり、盆踊り、ひまわりフェスなど、地域が活気に満ちる季節

小貝川、鬼怒川が流れ筑波山を望む自然豊かな筑西市。協和地区は奈良時代に新治郡衙(にいほりぐんが)が置かれ、下館地区は室町時代に下館城が築城されて以来、城下町として栄えるなど、豊かな歴史や文化もある。

夏の筑西市のイベントといえは、国内最大級の平成神輿などが繰り出す羽黒神社の例大祭・下館祇園まつり。今年は7月27日から30日までの日程で開催が予定されている。

お盆の時期には下館音頭の「下館盆踊り大会」でアルテリオ前広場が活気を見せる。筑西市役所開城支所で開催される相撲と梨の祭典「どすこいペア(今年は8月20日に開催予定)」も夏の筑西市の伝統的イベントとして知られる。

明野地区の宮山ふるさとふれあい公園周辺では、8月26日から9月3日にかけて「あけのひまわりフェスティバル」が開催される。筑波山をバックに約100万本の八重ひまわりが咲く風景は圧巻だ。

10月21日(荒天時は翌日)には、道の駅グランテラス筑西の周辺で「ちくせい花火大会」が開催される。茨城を代表する花火師が競演し、20001発が夜空を彩る。



あけのひまわりフェスティバル 2023年は8月26日(土)~9月3日(日)に開催



ちくせい花火大会



下館盆踊り大会

[写真提供:筑西市]

筑西市夏のコース

下館地区は城下町としての歴史を持つだけに、夏は活気あふれるイベントがいっぱい。話題の美術館や人気の道の駅にもぜひ立ち寄りたい。あけのひまわりフェスティバルが開催される明野地区も魅力があふれている。

D 道の駅グランテラス筑西



筑西市の魅力が詰まった拠点。花火大会の観覧ポイントにもなっている。

イベント 下館祇園まつり



平成神輿のほか、明治神輿、姫神輿(女子神輿)が下館駅前通りなどに繰り出す。最終日には勸行川の川渡御が行われクライマックスを迎える。



名産名品



梨
筑西市は江戸時代から赤梨の生産地として知られる。夏の「幸水」に始まり、秋には「豊水」、「恵水」などが出荷される。

A 廣澤美術館



貴重な作品が収蔵された建物は隈研吾氏の設計。趣ある3つの庭は作庭家の斎藤忠一氏とランドスケープアーキテクトの宮城俊作氏が設計・施工。ぜひ、一度は訪れてみたい美術館。

B あけの元気館



旧明野町猫島は平安時代に朝廷で活躍した陰陽師・安倍晴明誕生の地といわれる。晴明が鹿島神宮の竜王から授けられたという「晴明井」の温泉が楽しめる。

C 宮山ふるさとふれあい公園



あけのひまわりフェスティバルの中心となる公園。キャンプサイトやバーベキュー施設があり、年間を通して楽しめると好評。

筑西市マスコットキャラクター「ちくくん」



帽子は筑波山と川を表現している。体には名産のこだますいかとひまわりがあしらわれ、体全体で筑西市をPRしている。

筑西市の概要

平成17年に下館市と関城町、明野町、協和町が合併して誕生。国道50号と国道294号が交差し、JR水戸線、関東鉄道常総線、真岡鐵道が通るなど、交通の要衝になっている。

●お問い合わせ/筑西市シティプロモーション推進課 ☎0296(22)0507 ●企画・制作/読売茨城広告社 ☎029(244)5555

